



地場産業の景気天気図

業種		現状	→	3ヵ月先の見通し	最近の状況
製紙	印刷・情報 ・ 新聞用紙		→		9月の国内出荷は、印刷・情報用紙は前年同月比2.4%減と4ヵ月連続の減少となった。新聞用紙は、同6.0%減と13ヵ月連続で減少した。
	衛生用紙		→		9月の国内出荷は、前年同月比1.3%減と先月の増加から減少に転じた。需要期に入りトイレットなどで販促が増えたが、荷動きは鈍い。
	紙加工など		→		紙おむつの生産は、大人用、ベビー用ともに堅調に推移している。特にベビー用でメイドインジャパンの需要が高まっており、輸出が好調。
一般機械 ・ 金属製品 ・ 鉄鋼			→		クレーンは、造船所向けの生産・据付がピークを過ぎたものの高操業を維持。建設機械は、国内・海外とも需要の回復が続いており、プラント関係も需要が高い。ロボット用の変速機や加工機械も好調。
造船	遠洋 ・ 近海		→		日本船舶輸出組合によると、10月の輸出船契約実績は22隻・89万300総トンとなり、受注残が22ヵ月ぶりに前月比プラスに転じた。バルカー市況の先高観を見込んで、海外船主の新造船発注意欲が高まっているが、国内船主の動きは依然鈍い。
	内航		→		貨物船は旺盛な輸送需要に支えられ、リプレイス需要の引き合いが多い。タンカーも案件は少ないものの一定の引き合いはある。造船所間の競争は激しく、船価の上昇はみられない。
海運	遠洋		→		BDI（バルチック海運指数）は一進一退。11月20日時点で1385となった。穀物の輸送需要期に入ったことや中国向け石炭輸送量の増加で、ハンディやパナマックスなど中小型バルカーの運賃・備船料が上昇基調。
	近海		→		市況は急騰、スポット備船料が10,000ドル/日前後まで急回復している。国内オペレーター・船主が船腹量を減らしてきた半面、荷動きの活発化や台風等による荷役の停滞で船腹需給が一気にひっ迫したため。
	内航		→		貨物船輸送量は堅調に推移している。堅調な輸送状況を反映して運賃・備船料も上昇している。それを受け、船主は、保有船のリプレイスを検討したり、船員の待遇改善を図ったりしている。

業種	現状 → 3ヵ月先の見通し	最近の状況
タオル	 → 	10月のタオルの生産状況を表す今治地区の綿糸受渡数量は5,223梱で、前年同月比5.6%減となった。前年割れが続いているものの、生産は堅調。
海面養殖	 → 	マダイの浜値は970円/kg前後、ハマチの浜値は890円/kg前後でも高値圏での推移が続く。両魚種とも新物が出回り始めて出荷量はやや増加しているが、在池尾数が少ないなか、底堅く推移。
食品	 → 	削り節の原料であるカツオは、バンコク相場（国際相場）は水揚げが上向き若干下落したが依然高値圏で推移（現在2,000ドル/トン弱）。国内相場も240円/kg前後と高値が続く。蒲鉾では、主原料である輸入スリ身において、北米産の生産量が想定を下回ったことで、価格は今後やや強含むとの見方が多い。
建設	 → 	10月の県内の公共工事請負金額は、「国」「県」で大幅減となり、前年同月比17.0%減と3ヵ月連続で前年を下回った。一方、9月の新設住宅着工戸数は「持ち家」、「貸家」、「分譲住宅」いずれも前年を上回り、前年同月比15.5%増となった。
観光	 → 	9月の道後温泉旅館宿泊客数は、前年同月比3.3%減の75,343人と、9ヵ月連続で前年を下回った。9月の県内主要観光施設の入込み客数は、東予と中予が前年を上回ったが、南予が前年を下回り、全体では前年同月比1.2%減と3ヵ月連続で前年を下回った。

